

は飲み干さなければならぬため、過剰な塩分摂取に注意。フルーツ缶のシロップも糖分が多く含まれるため注意。

ウ 季節によって、塩分・水分の補給に注意を配る必要がある。

(2) 排泄

ア 仮設トイレ等、なるべくトイレに行く回数を減らしたくなるため、水分を控える傾向になるが、膀胱炎・便秘等のもとになるため、水分は可能な限り通常通りに摂取する。

イ 便秘になりやすいため、自己にてコントロールする。必要時、下剤の服用をするなどする。
(便秘になりやすい人は下剤を持参する。ない場合は医療班に処方してもらう)

(3) 睡眠

ア 集団生活の中で、同じサイクルで活動することはお互いのストレス軽減のために必要。就寝、起床時間は揃える。

イ 眠れない、イライラするなどストレス症状のある場合はお互いに状態を観察しあい、早期にメンタル面での調整を図る。

(4) 清潔

ア ウェットティッシュ等で清拭をする（過敏性皮膚の場合は、ノンアルコールが望ましい）。

イ ウェットティッシュやウェルパスを使用して、手指の清潔に努める。

ウ 被災者用の仮設風呂が設置されている場合は、マナーとモラルを守って使用する。

(5) ストレス

救援者の受けるストレスについて理解し、メンバーや自己の状態に気づかって早期発見と対処を心がける。

5 ミーティングの参加と情報交換

出来る限り毎晩ミーティングを行い情報交換するとともに、メンバー内で何でも言い合えるような関係をつくる。

また、毎日医療支援班が入れ替わるため、全体の把握と役割分担、指揮系統を明らかにし、混乱の無いようにする。

【撤退・引継ぎ】

被災地の状況が安定し、地元の医療機関が機能を回復すれば、撤退を検討する。災害対策本部など、地元の関係機関と連絡を取り合い、引継ぎを行う。

プライマリーヘルスケアの基本は「自助・自決」であり、災害救援活動においても、被災地の人々の活動を全て肩代わりするのではないことを念頭において援助活動を行ない、撤退の時期を決定する必要がある。

活動に際して、連携を取り合った地元の関係機関や、医療機関、保健師・看護師にも撤退の同意を得て、活動終了の報告と引継ぎ連絡をしっかりと行なう。

撤退時には、持ち込んだ医療資機材（特に消耗品類）で、現地に供与するものと持ち帰るものを現地の担当者と相談し、不要なものは持ち帰る。供与する際は、可能なら供与品のリストを作り、供与式やサインをもらうなどの形式をとるのが望ましい。

また、後続班が必要な場合は、地元の関係機関と相談の上、現地の最新の情報とニーズを正しく伝えて要請をする。

<参考文献>

1. JMTDRマニュアル；太田宗夫ら監修, 国際協力事業団 国際緊急援助隊事務局, 1998
2. 国際災害看護マニュアル；山本 保博ら監修, 真興交易医書出版部, 2002
3. 災害看護；黒田裕子ら監修, メディカ出版, 2004
4. インターナショナルナーシングレビュー 臨時増刊号；総特集 自然災害・事故・テロ時の看護, 第28巻, 第3号, 2005
5. 看護管理；特集:新潟中越地震・台風23号災害への援助活動, 84-106, Vol. 15, No. 2, 2005
6. 看護管理；特集:新潟中越地震への救援活動と病院の対応, 196-202, Vol. 15, No. 3, 2005

(添付)

【外傷看護の実際】

- (1) 頭部・顔面：明らかな変形や出血の有無。変形がなければ直接圧迫止血施行。変形がある場合には出血部周囲の皮膚を圧迫し止血を施行する。意識レベルの確認を行い、レベルが2桁（JCS）であれば搬送を考慮する。
- (2) 頸部：外頸静脈の怒張、気管の偏位、皮下気腫の有無を確認する。確認後頸部は動かさないように頸椎カラーで固定することが望ましい。
- (3) 胸部：胸郭運動の左右差、外表面の損傷の有無。呼吸音の左右差、皮下気腫の有無。
- (4) 開放性胸壁損傷（開放性気胸）・・・三辺テーピング
- (5) フレイルチェスト・・・厚く重ねたガーゼやタオルをあててテープで固定
- (6) また穿通性の異物がみられた場合にはそのままの状態固定する。
- (7) 腹部：明らかな損傷、膨隆の有無、圧痕の有無。腸管脱出している場合にはビニールなどで被覆する。また胸部同様穿通性の異物がみられた場合にはそのままの状態固定する。
- (8) 骨盤と大腿：腸骨を両側面から圧迫して動揺、痛みの有無を確認し、いずれかの症状がみられた場合には骨盤骨折の可能性があり、出血を助長させる可能性があるためそれ以上の触診は行わない。もしいずれかの症状がみられなかった場合には恥骨を上方から圧迫し動揺、痛みを確認する。
- (9) 骨折：開放性骨折の場合には感染予防・止血目的にて開放部を清潔なガーゼで覆う。また疼痛緩和・変形予防目的にシーネ（場合によっては傘や板等）で固定する。
- (10) クラッシュシンドローム：長時間局所が圧迫されることにより金組織損傷がおこり、救出されると同時に急性腎不全、凝固機能障害、代謝性アシドーシスなどを合併し、全身状態の悪化が急速に進行する。減張切開、大量の輸液と利尿剤投与しながら腎機能に注意していく。

【外傷看護：全身で鑑別するべき臓器損傷】

- タンポナーデ：外頸静脈の怒張、血圧低下、脈圧低下、奇脈、心音低下
- 気道外傷：顔面外傷、頸部皮下気腫、喉頭損傷、気道狭窄音
- フレイルチェスト：胸郭の奇異運動や動揺
- 開放性胸壁損傷（気胸）：吸い込み創、創からの泡の混じった出血
- 緊張性気胸：傷病者の呼吸音低下、鼓音、皮下気腫、気管の健側への偏移、頸静脈怒張

- 血胸：呼吸音の左右差、患側胸部の濁音
- 腹部の内出血：腹部膨隆、腹壁の緊張、腹部圧痛、下腹部の圧痕
- 骨盤骨折：骨盤の動揺・痛みの有無、下肢の伸長差
- 大腿骨骨折：大腿の変形・腫脹、動揺・痛み、下肢の伸長差

【熱傷看護】

熱傷分類	障害組織	生体変化	外見	症状	消毒	処置
I度熱傷	表皮	軽度の浮腫	発赤・紅斑	疼痛・熱感	ヒビテン液 (0.05% ヒビテン 水)	局所の冷却 消炎剤内服 ステロイド剤軟膏塗布
II度熱傷 (浅達性)	表皮	浮腫・水疱	水疱底が赤色	強い疼痛、 灼熱感	ポビドンヨ ード (イソジン)	水疱は温存 消毒後被覆剤で覆い感 染がなければ数日放置
II度熱傷 (深達性)	真皮		水疱底が蒼白	知覚鈍麻		小範囲の場合には上記 と同様の処置 広範囲の場合はIII度熱 傷処置と同様
III度熱傷	真皮全層 皮化組織	血管、血管内 の血球破壊 血流の途絶	壊死・白色	無痛性		感染防止目的で抗菌剤 の軟膏を塗布する。感染 があれば1回/2日ガーゼ 交換

【救護班員用健康管理セット】

品名	数	品名	数	品名	数
総合ビタミン剤		消毒セット		血圧計	
総合感冒剤		イソジン		聴診器	
解熱鎮痛剤		ガーゼ		体温計	
健胃・消化剤		ソフトタイ		リップクリーム	
止痢剤		冷湿布		点眼薬	
整腸剤		カットバン(長方形)			
イソジンガーグル		ゲンタシン軟膏			

*班員の人数により、必要準備数を適宜設定する。

医療機材セット					
品名	数	単位	品名	数	単位
シリンジ 50ml		箱	長撮子		本
シリンジ 20ml		箱	有鉤撮子		本
シリンジ 10ml		箱	無鉤撮子		本
シリンジ 5ml		箱	アドソン(有鉤)		本
シリンジ 2.5ml		箱	アドソン(無鉤)		本
シリンジ 1ml		箱	剪刀 両鈍反		本
インスリン用シリンジ(100単位/ml用)		箱	剪刀 眼科用両尖反		本
カテーテルチップ型シリンジ 50ml		箱	剪刀 抜糸用		本
注射針 18G		箱	ペアン(直)		本
注射針 21G		箱	ペアン(曲)		本
注射針 22G		箱	モスキート(直)		本
注射針 23G		箱	モスキート(曲)		本
カテラン針 23G		箱	ゾンデ		本
カテラン針 22G		箱	持針器		本
カテラン針 21G		箱	ヘガール		本
インサイト留置針 14G 長針		本	バイクリル 3.0		個
インサイト留置針 16G 長針		本	バイクリル 4.0		個
インサイト留置針 18G		本	バイクリル 5.0		個
インサイト留置針 20G		本	針付きナイロン糸 2.0		箱
インサイト留置針 22G		本	針付きナイロン糸 3.0		箱
インサイト留置針 24G		本	針付きナイロン糸 4.0		箱
翼状針 21G		箱	針付きナイロン糸 5.0		箱
翼状針 23G		箱	ナイロン糸 1.0		パック
針捨てボックス		個	ナイロン糸 2.0		パック
万能つぼ(ディスポ)		箱	ナイロン糸 3.0		パック
ビニール袋 90l		箱	ナイロン糸 4.0		パック
ビニール袋 45l		箱	ナイロン糸 5.0		パック
ビニール袋 10l		箱	絹糸 1.0		パック
ビニール袋 小サイズ		箱	絹糸 2.0		パック
トランスポアサージカルテープ 25mm幅		箱	絹糸 3.0		パック
トランスポアサージカルテープ 12.5mm幅		箱	絹糸 4.0		パック
カプレステーブ		巻	絹糸 5.0		パック
エラストポア 50m幅		箱	縫合針セットB(角針)		個
エラストポア 25m幅		箱	ステリストリップ 6mm×100mm		箱
デルマポア 1号		箱	ネラトンカテーテル3孔(ディスポ) 6号		本
デルマポア 2号		箱	ネラトンカテーテル3孔(ディスポ) 23号		本
デルマポア 3号		箱	膀胱留置カテーテルセット 14Fr		個
デルマポア 4号		箱	膀胱留置カテーテルセット 16Fr		個
デルマポア 5号		箱	膀胱留置カテーテル 10Fr		本
カルトスタット		箱	膀胱留置カテーテル 14Fr		本
オプサイトフレックス		巻	膀胱留置カテーテル 16Fr		本
カットパン(長方形)		箱	手術用滅菌手袋 6.0		個
カットパン(正方形)		箱	手術用滅菌手袋 6.5		個
プレスネット 5号		個	手術用滅菌手袋 7.0		個
プレスネット 4号		個	手術用滅菌手袋 7.5		個
プレスネット 3号		個	手術用滅菌手袋 8.0		個
滅菌ガーゼ 8つ折り		パック	プラスチック手袋 M		箱
滅菌ガーゼ 4つ折り		パック	プラスチック手袋 S		箱
滅菌ガーゼ 4つ折り		パック	臍盆(ディスポ)		個
コメガーゼ(中)		パック	ステンレストレイ(注射用)		個
婦人科用綿棒		箱	滅菌穴あきシート 3.0cm		個
滅菌綿棒(大)		本	滅菌穴あきシート 5.0cm		個
滅菌綿棒(小)		本	滅菌穴あきシート 8.0cm		個
ソフラチュール		枚	滅菌穴なしシート		個
油紙		巻	滅菌歯ブラシ		個
ノバクタンスプレー		本	シールド付きサージカルマスク		箱
ディスポ舌圧子		箱	安全ゴーグル		個
綿球(中)		パック	紙おむつ フラットタイプ		袋
ディスポ柄つきメス No. 10		本	ディスポガード かみそり		箱
ディスポ柄つきメス No. 11		本	酒精綿 100枚		箱
消毒セット(ディスポ)		パック	ショウドックスーパー		個

医療機材セット		
品名	数	単位
延長チューブ(ロック式)		個
延長チューブ(スリップ式)		個
延長チューブ(小児用)		個
三方活栓 R-型 シングル		個
輸液セット(成人用)		箱
輸液セット(小児用)		箱
駆血帯		巻
ペンライト		個
体温計		個
酸素飽和度モニター		個
電子血圧計		個
血圧計(成人用マンシエツト)		個
血圧計(小児用マンシエツト)		個
血圧計(大腿用マンシエツト)		個
打鍵器		個
聴診器		個
メジャー		個
体重計		個
サルバタオル		パック
タオル		枚
バスタオル		枚
たらい(沐浴/清拭用)		個
たらい(創洗浄等廃液用)		個
スプリントシーネ(下肢用)		個
スプリントシーネ(下腿用)		個
スプリントシーネ(上肢用)		個
アルフェンスシーネ No. 2		箱
アルフェンスシーネ No. 3		箱
アルフェンスシーネ No. 4		箱
三角巾		枚
ソフトタイ		
ソフトタイ		
弾性包帯		個
弾性包帯		個
洗浄用蒸留水ボトル		個
尿カップ		個
尿検査テストテープ		缶
潜血検査テストテープ		缶
グルコカード		個
ダイアセンサー		箱
AED		個
ポータブル心電計		個
湯たんぽ		個
水枕		個
器材煮沸消毒セット		セット
足踏み式吸引機		個
吸引カテーテル 50cm 14Fr		箱
吸引カテーテル 30cm 14Fr		箱
吸引カテーテル 30cm 10Fr		箱

救急蘇生セット		
品名	サイズ	数
喉頭鏡		1
喉頭鏡ブレード	5、4、3	各1
バイドブロック	大、中	各2
マギール鉗子	長	1
スタイレット		2
経鼻エアウェア	7.0 8.0	各1
アンビューバッグ		1
簡易吸引器		1
挿管チューブ	4.0 5.0 6.0 6.5 7.0 7.5 8.0 8.5	7.0~8.0は各2 ほかは各1本
吸引チューブ	6、10、14	各3本
注射器	2.5 5 10 20	各3
注射針	18G 23G	各5
翼状針	21G 23G	各2
輸液セット	成人用	3
延長チューブ		3
三方活栓		3
布製テープ		1巻
駆血帯		1本
はさみ		1
プラスチック手袋	M、S	10枚
酒精綿		1箱
ヴィーンエフ	500ml	2
エピネフリン	1ml	5
生理食塩水	20ml	5
硫酸アトロピン	0.5mg	4
キシロカインゼリー		1

藥劑師

亜急性期の災害医療救護班における薬剤師の活動チェックリスト

区 分	活 動 項 目
出 発 前	<input type="checkbox"/> 携行用医薬品を準備する(リスト 67-69 頁参照) <input type="checkbox"/> 被災地での活動に必要な薬剤関連資材を準備する(リスト 70 頁参照) <input type="checkbox"/> 医療救護所における処方・調剤の方法について打ち合わせる <input type="checkbox"/> 医療救護班における薬剤師の役割・活動内容について打ち合わせる
現 地 で の 活 動 準 備	<input type="checkbox"/> 活動地点での電気、水道、ガスなどのライフラインの状況を確認する <input type="checkbox"/> 医療救護所内に医薬品の保管場所及び調剤場所を確保する <input type="checkbox"/> 医薬品を調剤しやすいように分類する <input type="checkbox"/> 医薬品毎に適切な保管が出来るように努める(冷所薬、向精神薬など) <input type="checkbox"/> 調剤場所に調剤用物品を配置する <input type="checkbox"/> 巡回用医薬品のセットを準備する(巡回診療を行う場合) <input type="checkbox"/> 現地での他の医療救護班の活動状況を把握し、薬剤師同士の連携が取れるように努める <input type="checkbox"/> 現地での医薬品等の補給方法を検討する <input type="checkbox"/> 地元薬剤師会の活動状況を確認し、連携が取れるように努める <input type="checkbox"/> 近隣医療機関の診療状況、保険薬局の調剤状況を確認する <input type="checkbox"/> かかりつけ医からの慢性疾患治療薬の入手方法を確認する
救 護 活 動	<input type="checkbox"/> 医療救護所で調剤・服薬指導を行う <input type="checkbox"/> 巡回診療に同行し、調剤・服薬指導を行う <input type="checkbox"/> 医療救護所の限られた医薬品で最良の処方出来るように、医師に処方アドバイスを行う <input type="checkbox"/> 保健師、看護師と連携をとり被災住民への感染予防活動を行う(含嗽・手指消毒の指導など) <input type="checkbox"/> 使用したり、供給された医薬品を1日毎に集計・記録し、救護所の医薬品の在庫を常に把握する <input type="checkbox"/> 不足が予測される医薬品について、補給の手配を行う <input type="checkbox"/> 他の医療救護班から医薬品の援助要請があった場合は、可能な限り応ずる努力をする <input type="checkbox"/> 診療時の事務作業(受付、カルテ整理など)、処置の補助なども、時間の許す限り積極的に行う <input type="checkbox"/> 所属施設と頻回に連絡を取り、活動状況の報告、必要な支援の依頼を行う <input type="checkbox"/> 日々の活動内容を日誌として記録する
撤 退 ・ 引 き 継 ぎ	<input type="checkbox"/> 活動終了時の残薬の取り扱いを検討する (所属施設に持ち帰る。活動を継続する医療救護班に譲渡する。被災地に譲渡する。など) <input type="checkbox"/> 活動終了時の医薬品の在庫を明確にする <input type="checkbox"/> 活動期間中に使用した医薬品を集計する <input type="checkbox"/> 医薬品を譲渡する場合は、譲渡方法を譲渡先と相談する <input type="checkbox"/> 救護活動を行う際に連携を取って活動していた相手に、活動終了の連絡を行う <input type="checkbox"/> 救護活動を他の医療救護班に引き継ぐ場合は、活動状況や使用医薬品の状況を正確に報告する

薬剤師マニュアル

【出発前】

1 携行用医薬品の準備

(1) 被災地での医療救護活動に必要と思われる医薬品を携行用として準備する。

*新潟中越地震における川口町での医療救護活動を参考にした携行用医薬品リスト（1週間程度の活動を想定）を別添資料として例示した（67-69頁参照）。

*亜急性期の災害医療救護活動において需要が予想される医薬品のリストを別添資料として例示した（71-72頁参照）。

2 薬剤関連物品の準備

(1) 被災地の医療救護所において調剤及び医薬品の保管・管理に必要な資材を準備する。

*新潟中越地震における川口町での医療救護活動を参考にした携行する薬剤関連資材リスト（1週間程度の活動を想定）を別添資料として例示した（70頁参照）。

(2) 準備する資材のうち事務用品等については、後方支援担当者と打ち合わせを行い重複しないように注意する。

3 医療救護所における処方・調剤の方法の打ち合わせ

(1) 医療救護所における処方・調剤の方法について、医師と打ち合わせを行う。

(2) 災害時は診療録に記載された処方に基づいて調剤が行われることが多いが、亜急性期においては、処方せんを用いた処方及び調剤が望ましい。

(3) 処方せんは3枚綴り（複写）とし、1枚目：調剤用、2枚目：患者控え用、3枚目：医師控え用（診療録貼付用）とするのが便利である。（別添資料として例示した。66頁参照）

4 医療救護班における薬剤師の役割・活動内容の打ち合わせ

(1) 医療救護班における薬剤師の役割及び活動内容について、班員と打ち合わせを行う。

(2) 医療救護班における薬剤師の活動としては、次のようなことが考えられる。

ア 診療における調剤及び服薬指導

イ 医薬品等の在庫管理

ウ 診療時の医師への処方アドバイス

エ 慢性疾患使用医薬品の鑑別

オ 公衆衛生活動（含嗽・手指消毒の指導、消毒薬の供給・補充）

【現地での活動準備】

1 活動地点でのライフラインの確認

(1) 活動地点での電気、水道、ガスなどのライフラインの状況を確認し、状況に応じた医薬品の保管・管理方法を検討する。

2 医薬品の保管場所及び調剤場所の確保

(1) 医療救護所内に医薬品の保管場所及び調剤場所を確保する。

(2) 医薬品は診察場所の近くに一括して保管することが調剤及び管理上望ましいが、スペースが確保出来ない場合は、別にストック用保管場所を確保する。

(3) 医薬品の保管場所の側に調剤場所を設ける。

(4) 医薬品の保管場所及び調剤場所は関係者以外が立ち入ることがないように工夫する。

(5) 場所の確保が出来たら、医薬品や調剤用資材を効率よく活動が行えるように配置する。

3 医薬品の分類・保管

- (1) 薬の保管には、事前に保管用のケース等を用意していくことが望ましい。
- (2) 医薬品は内用薬、外用薬、注射薬に区別して保管する。また、毒薬、向精神薬については、可能な限り鍵の懸かる保管場所を確保する。
- (3) 冷所保存が必要な医薬品は、温度管理に注意する。アウトドア用の冷蔵庫（電気不要タイプもある）を準備するのが望ましいが、無理な場合はクーラーボックスと瞬間冷却剤等を準備すると良い。
- (4) 薬の分類は、種類別にアイウエオ順や薬効別に分類するのが良い。薬袋などを利用し、袋の上に医薬品名を記載したり、色を付けたりして区別すると便利である。

4 巡回用医薬品等の準備

- (1) 巡回診療を行う場合は、巡回診療用の医薬品及び調剤用資材を準備する。
- (2) 1回の巡回に必要なと思われる医薬品および調剤用資材（薬袋、筆記用具等）を用意し、携帯用の容器（リュックサック等）に入れる。

5 現地での薬剤師同士の連携

- (1) 現地で活動を行っている他の医療救護班の薬剤師と連絡を取るよう努める。他の医療救護班の活動状況を把握し、医薬品等の譲受・譲渡、公衆衛生活動などに連携して活動が行えると良い。定期的にミーティングなどを行うのが良い方法である。
- (2) 現地で活動を行っている地元薬剤師会と連絡を取るよう努める。地元薬剤師会の活動状況を把握し、被災住民に適切な情報が提供出来るよう努める。また、連携して活動が行えることがあれば積極的に行う。
- (3) 近隣医療機関の診療状況、保険薬局の調剤状況を確認し、被災住民に適切な情報が提供出来るよう努める。また、医療救護班の薬剤師として援助出来ることがあれば積極的に行う。

6 現地での医薬品の補給方法の検討

- (1) 医療救護班で使用する医薬品は派遣元医療機関より持参することを基本とするが、医療救護活動中の医薬品の不足に備えて、現地での医薬品の補給方法も検討する必要がある。
- (2) 現地での医薬品の補給には次のような方法が考えられる。現地での医薬品の供給状況を確認し、状況に応じて適切な対応を取ることが必要である。特に、現地の災害対策本部と連絡を取り、医薬品集積所の設置状況や近隣における協力医療機関の情報を得ることが大事である。

- ア 所属する医療機関からの補給
- イ 近隣の医療機関からの補給
- ウ 現地で活動を行っている医療救護班からの譲受
- エ 都道府県及び市町村における災害用の備蓄医薬品の利用
- オ 被災地外からの救援医薬品の利用

7 慢性疾患治療薬の入手方法の確認

- (1) 被災住民が常用している慢性疾患治療薬の入手方法を現地の災害対策本部に確認し、被災住民に情報提供を行う。
- (2) 災害時には、診察を受けずにかかりつけ医からの常用薬の処方及び調剤が可能な場合がある。その際には、不足する常用薬の把握及びかかりつけ医への連絡、また調剤された常用薬の服薬指導などを行うことも必要である。

【救護活動】

1 医療救護所における調剤及び服薬指導

- (1) 調剤は原則として処方せんに基づいて行うが、緊急の場合は、診療録に基づいて行うこともある。
- (2) 調剤の際には処方せんまたは診療録に調剤済みの旨、調剤者の記名押印又は署名、調剤年月日を記入する。
- (3) 薬袋には、患者名、用法・用量、投与日数、調剤者の記名押印又は署名、調剤年月日などを記載するが、予め必要事項が印刷されているものや、必要事項が押印できるスタンプなどを利用すると便利である。
- (4) 調剤録を作成し、調剤の記録を記載することが望ましい。
- (5) 調剤後には、患者が正しく医薬品の使用が出来るように、服薬指導を行う。
- (6) 患者への薬剤情報提供として、薬袋へ薬品名、薬効、注意事項を記載することが望ましい。また、患者に他の医療救護班や医療機関で診察を受ける際には、処方せんの控えや薬袋を持参することを勧める。

2 巡回診療への同行

- (1) 医療救護班で巡回診療を行う場合は、可能な限り同行し、調剤、服薬指導、公衆衛生活動などを行うように努める。
- (2) 巡回診療に同行する場合は、診察時に調剤・服薬指導が出来るように繁用される医薬品を遂行していくことが望ましいが、巡回診療終了後に調剤して届ける方法でも良い。

3 医師への処方アドバイス

- (1) 医療救護所内の限られた医薬品で医師が最良の処方出来るように、常に医療救護所内の医薬品の在庫を把握し、医師の処方意図に合った医薬品をアドバイスする。
- (2) 医薬品が不足した場合は、現地では特定銘柄の医薬品の確保は困難が予想されるために、同種同効薬の使用についてのアドバイスも必要である。
- (3) 患者の常用薬・持参薬の調査・確認を行い、処方が必要な場合は医師に救護所の在庫薬から同種薬や同効薬などの処方アドバイスを行う。また、相互作用の確認なども行う。

4 公衆衛生活動

- (1) 被災住民への感染症の蔓延を防止するために、保健師、看護師と連携を取り、感染予防活動を行う。具体的には次のような活動が考えられる。
 - ア 含嗽、手指消毒の遂行（パンフレットの配布やポスターの掲示など）
 - イ 含嗽、手指消毒の手技の指導
 - ウ 含嗽薬、手指消毒薬の配置及び補充

5 医薬品の管理

- (1) 調剤した医薬品及び補給した医薬品は毎日集計を行い記録を作成する。常に救護所内にある医薬品の種類・数量は把握しておく。
- (2) 不足が予測される医薬品がある場合は、速やかに補給の手配をする。
- (3) 医薬品の補給が上手く行かず不足した場合は、医師と代替薬について検討を行う。
- (4) 医薬品の管理にはコンピューター（電気が使用出来る場合）を利用すると良い。
- (5) 他の医療救護班から医薬品の援助要請があった場合は、可能な限り応ずる努力をする。

6 医療チームとしての活動

- (1) 薬剤師としての活動以外にも、医療救護班の一員として薬剤師が出来ること積極的に行っていく。具体的には次のような活動が考えられる。
 - ア 診療時の事務作業（受付、カルテ整理など）
 - イ 処置の補助

7 その他

- (1) 所属施設と頻回に連絡を取り、活動状況の報告、必要な支援の依頼を行う。
- (2) 日々の活動内容を日誌として記録し、引継ぎや活動終了時の報告などに利用出来るようにする。

【撤退・引継ぎ】

1 活動終了時の残薬の取り扱い

- (1) 利用せずに残った医薬品は持ち帰ることを基本とするが、引き続き活動を継続する医療救護班が利用出来るようであれば譲渡することも検討する。
- (2) その地域における医療救護活動が終了となり、最終的に残された医薬品については地元自治体の災害対策本部と協議を行い、地元において有効利用が出来るようであれば譲渡することも検討する。

2 医薬品の管理

- (1) 活動終了時の医薬品の在庫を明確にし、医薬品の種類・数量を記載したリストを作成すると良い。医薬品を譲渡する場合は、医薬品リストを添えて譲渡する。
- (2) 活動期間中に使用した医薬品を集計し、使用医薬品の種類・数量を明確にする。

3 撤退時の引継ぎ及び連絡

- (1) 活動終了時には、現地で連携を取って活動していた相手に、活動終了の連絡を行う。
- (2) 救護活動を他の医療救護班に引き継ぐ場合は、活動状況や使用医薬品の状況を正確に報告する。

別添資料

- 1 災害用処方せん（見本）66 頁参照
- 2 災害時携行用医薬品リスト（亜急性期用）67-69 頁参照
- 3 災害時携行用薬剤関連資材リスト（亜急性期用）70 頁参照
- 4 災害医療救護活動（亜急性期）において需要が予想される医薬品リスト（71-72 頁参照）

③		医師控え用	
②		患者控え用	
①		調剤用	
災害用処方せん		医療救護所等の名称	
患者	氏名		男・女
	明・大・昭・平 年 月 日生		医師の氏名
交付年月日		平成 年 月 日	所属する医療機関の名称
処方			
備考			
調剤済年月日	平成 年 月 日	薬剤師氏名	

処方せんは 3枚綴り（複写）とし、1枚目：調剤用、2枚目：患者控え用、3枚目：医師控え用（診療録添付用）とするのが望ましい。

災害時携行用医薬品リスト(亜急性期)

新潟中越地震における川口町での医療救護活動を参考にした災害における亜急性期の医療救護活動

(1週間程度)の際に携行する医薬品リストの1例

種類	薬効分類	小児 製剤	医薬品名	規格	被災後	被災後
					3~14日 数量	14日以降 数量
内用薬	抗不安薬		セルシン錠	2mg	200	100
内用薬	催眠・鎮静薬(超短期作用型)		マイスリー錠	5mg	100	100
内用薬	催眠・鎮静薬(短期作用型)		レンドルミン錠	0.25mg	200	100
内用薬	解熱鎮痛消炎剤		ロキソニン錠	60mg	500	300
内用薬	解熱鎮痛消炎剤	○	カロナール錠	200mg	200	200
内用薬	総合感冒剤		PL 顆粒	1g	1000	500
内用薬	総合感冒剤	○	小児用風邪薬(注1)		500	300
内用薬	鎮痙薬		ブスコパン錠	10mg	50	50
内用薬	抗めまい薬		メリスロン錠	6mg	50	50
内用薬	降圧剤(Ca拮抗薬)		アムロジン錠	2.5mg	200	100
内用薬	降圧剤(ACE阻害薬)		レニベース錠	2.5mg	100	50
内用薬	抗狭心症薬(硝酸薬)		ニトロベン錠	0.3mg	20	20
内用薬	去痰剤		ムコダイン錠	250mg	500	500
内用薬	鎮咳薬		メジコン錠	15mg	500	500
内用薬	気管支拡張薬・喘息治療薬		テオドール錠	100mg	200	100
内用薬	気管支拡張薬・喘息治療薬	○	テオドールドライシロップ	50mg	100	50
内用薬	止瀉薬		ロペミンカプセル	1mg	50	50
内用薬	整腸薬		ビオフェルミン	1g	200	200
内用薬	整腸薬	○	ビオフェルミン	0.5g	100	100
内用薬	消化性潰瘍用剤		セルベックスカプセル	50mg	400	300
内用薬	消化性潰瘍用剤(H2遮断薬)		ガスター錠	20mg	100	100
内用薬	下剤(大腸刺激性下剤)		ブルゼノド錠	12mg	100	100
内用薬	下剤(塩類下剤)		酸化マグネシウム	0.5g	100	100
内用薬	胃腸機能調整薬		プリンペラン錠	5mg	100	100
内用薬	副腎ホルモン製剤		プレドニン錠	5mg	100	50
内用薬	抗血小板薬		バイアスピリン錠	100mg	100	100
内用薬	血糖降下薬		ダオニール錠	1.25mg	100	50
内用薬	アレルギー治療薬(抗ヒスタミン剤)		ポララミン錠	2mg	200	100
内用薬	アレルギー治療薬(抗ヒスタミン剤)	○	ザジテンドライシロップ	0.3mg	100	50
内用薬	抗生物質(マクロライド系)		クラリス錠	200mg	200	100

内用薬	抗生物質(マクロライド系)	○	クラリスドライシロップ小児用	50mg	100	50
内用薬	抗生物質(ペニシリン系)		サワシリンカプセル	250mg	200	100
内用薬	抗生物質(ペニシリン系)	○	サワシリン細粒	100mg	100	50
内用薬	抗生物質(セフェム系)		ケフラーカプセル	250mg	400	200
内用薬	抗生物質(セフェム系)	○	ケフラー細粒	100mg	200	100
内用薬	化学療法薬(キノロン系)		クラビット錠	100mg	200	100
内用薬	抗ウイルス薬		ゾビラックス錠	200mg	200	100
外用薬	解熱鎮痛消炎剤(坐薬)		ボルタレンサボ	25mg	50	30
外用薬	解熱鎮痛消炎剤(坐薬)	○	アンヒバ	100mg	30	20
外用薬	抗菌薬(点眼)		クラビット点眼液	5mL	10	5
外用薬	抗アレルギー薬(点眼)		ザジテン点眼液	5mL	10	5
外用薬	抗狭心症薬(貼付)		フランドルテープ S	40mg	10	10
外用薬	気管支拡張薬(吸入)		サルタノールインヘラー	13.5mL	5	5
外用薬	気管支拡張薬(吸入)		ベネトリン吸入液	30mL	2	2
外用薬	去痰薬(吸入)		ビソルボン吸入液	500mL	1	1
外用薬	気管支拡張薬(貼付)	○	ホクナリンテープ	0.5mg	50	25
外用薬	気管支拡張薬(貼付)	○	ホクナリンテープ	1mg	50	25
外用薬	含嗽剤		イソジンガーグル	30mL	100	50
外用薬	胃腸機能調整薬(坐薬)	○	ナウゼリン坐剤	10mg	20	10
外用薬	胃腸機能調整薬(坐薬)	○	ナウゼリン坐剤	30mg	20	10
外用薬	殺菌消毒薬(口腔用薬)		オラドール口中錠	0.5mg	400	300
外用薬	口内炎治療薬(塗布)		ケナログ軟膏	2g	10	10
外用薬	副腎皮質ホルモン薬(塗布)		リンデロンVG軟膏	5g	10	10
外用薬	鎮痛薬(塗布)		ボルタレンゲル	25g	10	10
外用薬	消炎薬(塗布)		アズノール軟膏	20g	20	10
外用薬	抗ヒスタミン薬(塗布)		レスタミンコーワ軟膏	10g	20	10
外用薬	抗菌薬(塗布)		ゲーベッククリーム	100g	10	5
外用薬	抗菌薬(塗布)		ゲンタシン軟膏	10g	20	10
外用薬	抗菌薬(貼付)		ソフラチュール	10× 10cm	10	5
外用薬	消炎・鎮痛パップ剤		ミルトックス	6	100	50
外用薬	抗ウイルス薬(塗布)		ゾビラックス軟膏	5g	10	10
外用薬	浣腸薬	○	グリセリン浣腸	30mL	5	5
外用薬	消毒薬(手指用)		ウェルパス	1000mL	10	10
外用薬	消毒薬		イソジン液	250mL	3	3
外用薬	消毒薬		消毒用エタノール	500mL	3	3
外用薬	消毒薬		0.05%マスキン水	500mL	5	5

外用薬	生理食塩液		生理食塩水(開栓)	1000mL	10	5
外用薬	滅菌精製水		精製水(開栓)	1000mL	20	5
注射薬	鎮痛薬		ペンタジン注	15mg	5	5
注射薬	抗不安薬		ホリゾン注	10mg	5	5
注射薬	抗不安薬		アタラックスP注	25mg	5	5
注射薬	副交感神経抑制薬		硫酸アトロピン注	0.5mg	5	5
注射薬	局所麻酔薬		1%キシロカインポリア ンプ	10mL	10	10
注射薬	電解質輸液		ラクテック	500mL	5	5
注射薬	電解質輸液		ソリタT1	500mL	5	5
注射薬	強心薬・昇圧薬		イノバン注	100mg	5	5
注射薬	強心薬・昇圧薬		ドブトレックス注	100mg	5	5
注射薬	強心薬・昇圧薬		エピクイック注	1mg	5	5
注射薬	強心薬・昇圧薬		ノルアドリナリン注	1mg	5	5
注射薬	気管支拡張薬・喘息治療薬		ネオフィリン注	250mg	5	5
注射薬	生理食塩液		生理食塩水	20mL	30	30
注射薬	生理食塩液		生理食塩水	100mL	10	10
注射薬	抗生物質(セフェム系)		パンスポリン静注用1g バッグS	1g	10	10
注射薬	抗生物質(ペニシリン系)		ベントシリン静注用1gバ ッグ	1g	10	10
注射薬	トキソイド		破傷風トキソイド	1mL	10	10
注射薬	インスリン製剤		ヒューマリンR注	10mL	1	1

(注1)小児用風邪薬(院内製剤):1包=ペリアクチン散1mg、アスピリン散10mg、ムコダイン細粒100mg

災害時携行用薬剤関連資材リスト(亜急性期)

新潟中越地震における川口町での医療救護活動を参考にした災害の亜急性期の医療救護活動(1週間程度)の際に携行する薬剤関連資材リストの1例

区分	物品名	数量
調剤用物品	処方せん	300枚
	薬袋(内用薬用)	500枚
	薬袋(外用薬用)	200枚
	外用薬瓶(100mL)	20個
	軟膏壺(30g)	10個
	軟膏ペラ	1本
	ビニール袋	50枚
	調剤印	1個
事務用品	マジック(黒、赤、青など)	各1本
	ボールペン	2本
	輪ゴム	1箱
	セロハンテープ	1本
	ハサミ	1本
	電卓	1台
	ステイプラー(本体)	1台
	ステイプラー(針)	1箱
	ノート	2冊
	ノートパソコン	1台
	USBストレージ	1個
書籍	医薬品集(医療用・一般用)	各1冊
	医薬品鑑別辞典	1冊
	治療指針	1冊
その他	アウトドア用冷蔵庫又は保冷容器	1台
	瞬間冷却剤	30個
	リュックサック(巡回診療用)	1個
	ケース(薬保管用)	数個

* 事務用品等は後方支援担当者と打合せを行い、重複のないように注意する。

災害医療救護活動(亜急性期)において需要が予想される医薬品リスト

種類	薬効分類	予測される医薬品の需要		小児用製剤の必要性	代表的な医薬品
		被災後3~14日	被災後14日以降		
内用薬	抗不安薬	◎	△		デパス、セルシン、リーゼ、セレナール
内用薬	催眠・鎮静薬(超短期作用型)	△	△		アモバン、マイスリー
内用薬	催眠・鎮静薬(短期作用型)	○	△		レンドルミン、リスミー
内用薬	解熱鎮痛消炎剤	◎	◎	○	ロキソニン、ブルフェン、アセトアミノフェン
内用薬	総合感冒剤	◎	◎	○	PL顆粒
内用薬	鎮痙薬	△	△		ブスコパン
内用薬	抗めまい薬	△	△		メリスロン
内用薬	降圧剤(Ca拮抗薬)	◎	△		アムロジン、アダラート、アダラートL、ヘルベッサー
内用薬	降圧剤	△	△		レニベース、プロプレス
内用薬	抗狭心症薬(硝酸薬)	△	△		ニトロベン
内用薬	去痰剤	◎	◎	○	ムコダイン、ムコソルバン
内用薬	鎮咳薬	◎	◎	○	メジコン、トクレス、レスプレン、アスベリン
内用薬	気管支拡張薬・喘息治療薬	○	△	○	テオドール、テオロング
内用薬	止瀉薬	△	△		ロベミン
内用薬	整腸薬	◎	○	○	ビオフェルミン、ラックビー
内用薬	消化性潰瘍用剤	◎	○		アルサルミン細粒、マーズレンS、セルベックス
内用薬	消化性潰瘍用剤(H2遮断薬)	○	△		ガスター、アルタット、ザンタック
内用薬	下剤(大腸刺激性下剤)	○	△		ブルゼニド、アローゼン
内用薬	下剤(塩類下剤)	○	△		酸化マグネシウム
内用薬	胃腸機能調整薬	△	△		プリンペラン、ナウゼリン
内用薬	副腎ホルモン製剤	△	△		プレドニン
内用薬	抗血小板薬	△	△		バイアスピリン
内用薬	血糖降下薬	△	△		ダオニール、グリミクロン
内用薬	アレルギー治療薬	◎	△	○	ポララミン、ペリアクチン
内用薬	抗生物質(マクロライド系)	◎	○	○	クラリス、クラリシッド
内用薬	抗生物質(ペニシリン系)	○	△	○	サワシリン
内用薬	抗生物質(セフェム系)	◎	◎	○	フロモックス、セフゾン、ケフラル
内用薬	化学療法薬(キノロン系)	◎	○	○	クラビッド
内用薬	抗ウィルス薬	△	△		ゾピラックス
外用薬	解熱鎮痛消炎剤(坐薬)	◎	○	○	アンヒバ、ボルタレンサボ
外用薬	抗菌薬(点眼)	○	△		クラビット点眼

外用薬	ビタミン製剤(点眼)	△	△		サンコバ点眼
外用薬	抗アレルギー薬(点眼)	△	△		ザジテン点眼
外用薬	抗狭心症薬(貼付)	△	△		フランドルテープS
外用薬	気管支拡張薬(吸入)	△	△		サルタノールインヘラー、ベネトリン吸入液
外用薬	去痰薬(吸入)	△	△		ピソルボン吸入液
外用薬	気管支拡張薬(貼付)	◎	○	○	ホクナリンテープ
外用薬	含嗽剤	◎	◎		イソジンガーグル
外用薬	胃腸機能調整薬(坐薬)	○	△	○	ナウゼリン坐薬
外用薬	殺菌消毒薬(口腔用薬)	◎	◎		SPトローチ、オラドールトローチ
外用薬	口内炎治療薬(塗布)	△	△		ケナログ軟膏、デキササルチン軟膏
外用薬	副腎皮質ホルモン薬(塗布)	○	○		リンデロンVG軟膏、ロコイド軟膏
外用薬	鎮痛薬(塗布)	○	△		ボルタレンゲル、インテバンクリーム
外用薬	消炎薬(塗布)	◎	△		アズノール軟膏、アンダーム軟膏
外用薬	抗ヒスタミン薬(塗布)	○	△		レスタミン軟膏
外用薬	抗菌薬(塗布)	◎	△		ゲーベンクリーム
外用薬	抗菌薬(塗布)	◎	△		ゲンタシン軟膏
外用薬	抗菌薬(貼付)	○	△		ソフラチュール
外用薬	消炎・鎮痛パップ剤	◎	◎		ミルタックス、セルタッチ、アドフィード、MS温シップ
外用薬	抗ウイルス薬(塗布)	△	△		ゾビラックス軟膏、アラセナA軟膏
外用薬	浣腸薬	△	△		グリセリン浣腸
外用薬	保護薬(塗布)	○	△		白色ワセリン
外用薬	消毒薬(手指用)	◎	◎		ウェルパス
外用薬	消毒薬	○	○		消毒用エタノール、イソジン、マスキン
外用薬	生理食塩液	◎	○		
外用薬	滅菌精製水	◎	○		
注射薬	鎮痛薬	△	△		ベンタジン注、レペタン注
注射薬	抗不安薬	△	△		ホリゾン注、アタラックスP注
注射薬	副交感神経抑制薬	△	△		硫酸アトロピン注
注射薬	局所麻酔薬	△	△		キシロカインポリアンブ
注射薬	電解質輸液	△	△		ラクテック、ソリタT1号
注射薬	強心薬、昇圧薬	△	△		イノバン注、ドブトレックス注、エピクイック注
注射薬	生理食塩液	△	△		
注射薬	気管支拡張薬・喘息治療薬	△	△		ネオフィリン注
注射薬	抗生物質	△	△		セフェム系、ペニシリン系
注射薬	インスリン製剤	△	△		ヒューマリンR注
注射薬	トキシイド	△	△		破傷風トキシイド

予測される医薬品の需要 ◎:需要大 ○:需要中 △:需要小

生活機能低下予防マニュアル

～生活不活発病を防ぐ～

国立長寿医療センター研究所生活機能賦活研究部部長 大川 弥生